

災害ボランティア活動報告 (No. 1)

年月日：平成23年7月30日(土)～31日(日)

活動場所：いわき市

活動内容：①津波被災者の方の家屋内の家財移動、②救援物資配送拠点内の仕分け・運搬作業

活動拠点：いわき市災害ボランティアセンター

参加者：会員 No.9 都築一憲、会員 No.10 時岡真治

活動報告

7月30日(土)

午前6時 葛飾からいわき市に向け出発

午前9時いわき市災害ボランティアセンターに到着

ボランティアセンターで、初回参加受付。氏名、年齢、住所等を記載。保険の有無を口頭確認。

会議室では、コーディネーターがニーズを説明し、手上げ方式で参加者を募る。ガレキ撤去などニーズは多数、どんな人数でも投入できる大きな現場がある模様。活動を特に選ばず、津波で被災を受けた方の家財移動に参加。グリーン・グリーの2名と他のグループの3名でチーム編成。時岡がリーダーになる。ルールは、陸高と同様、4時までにはボラセンに戻る。

他のグループの大きな車で移動。被災者の方は津波により床の高さ位の被災。床や壁の修繕に入るが、高齢の夫妻。おじいちゃんは、身体が不自由。大きな食器棚や家財道具の移動が困難。修繕の邪魔にならないように家財道具を移動させる。また、床下の泥や災害ゴミも搬出。

10時30分から15時30分まで活動。お昼休みに休憩をとる。おばあちゃんが、豚汁などを出してくれる。断っていたが、既にお椀でだされているので食べるしかない。その他の休憩は作業の合間がかなりあり(依頼者の関係者など話好きな人が多く、地震直後から今後の復興に向けてのさまざまなことを教えてくれる)、まとまった時間はとらない。

当日できる作業は全て完了。床を直した後の再移動のニーズがあり、ボラセンに帰還後報告。

県の出先事務所で、高速道路の無料手続きを行い、宿に帰還。



7月31日(日)

午前8時 ボラセンに向け市内の旅館を出発。午前8時半にボラセンに到着。

継続参加の受付。同じく手上げ方式。救援物資の配送拠点の活動に参加。グリーン・グリーの2名と他グループの3名でチーム編成。リーダーは人数の多い相手方にまかし、時岡が副リーダー。各々の車で移動。

NPOが運営している救援物資の配送拠点。物資は各地のNPOや企業から送られた食品、初期、マスク、衣料などさまざま。土日はちょうど、救援物資の頒布のイベントがあったみたいで、何台ものトラックや車に荷物を積み込む。イベントの間、配送拠点で物資の仕分け・運搬作業を行う。

岩手、宮城の被災が大きくとりあげられるが、福島の海岸線も大きな被害を受けているとのこと。被災の状況が東京に伝わっていないなど、NPOの方々とは休憩の時に話す。

午後3時過ぎまで活動しボラセンに帰還。東京に向けて出発。帰還。

